

# 水稻(ちば28号(愛称:ふさこがね))

山武農林振興センター

## 1 地区名(集団名)

山武郡大網白里町細草地区

## 2 栽培戸数、面積、収穫量又は出荷量、出荷先又は販売方法

- (1) 栽培戸数 3戸
- (2) 栽培面積 270 a
- (3) 収穫量 14.58 t 540kg/10 a
- (4) 出荷先 山武郡市農業協同組合

## 3 ちばエコ基準達成状況

区 分	実施状況	ちばエコ基準
化学合成農薬(成分回数)	5回	7回
化学肥料(窒素分量)	2.36kg/10a	4.5kg/10a

## 4 事例のあらまし

「ちば28号(愛称:ふさこがね)」は、本年度から一般栽培がスタートしました。「ふさこがね」の病気に強い特徴を生かし、早速、「ちばエコ農業」産地拡大スピードアップ支援事業の展示ほとしての積極的な取り組みを行いました。

栽培は、JAグループ千葉もっと安心米の統一栽培暦を参考に、倒伏させないことを第一に、収量を標準栽培より一割程度低く設定した計画に沿って行いました。その結果、生育前半の日照不足により穂数がやや少なくなったものの、目標どおりの収量が確保できた上、登熟歩合は90.2%、玄米千粒重は25.9gで、品質も良好となり、初年目としてはまずまずのスタートを切ることができました。

展示ほに取り組んだ生産者は、本年度の結果に手応えを感じ、来年度の取り組みにも意欲的です。

## 5 背景・動機

「ふさこがね」は、地域の作付品種割合が早生と晩生の二極化傾向となってきた状況でデビューした高品質な中生品種であることから、本年まき種子注文量が非常に多く、

当品種に対する農家の期待の大きさが伺えました。

こうした状況の中で、「ふさこがね」が「ちばエコ米」として計画申請されたことを受け、今後の普及を見据え、展示ほ場として実施することとなりました。



「ちば28号」の  
展示ほ場現地検討会



順調な生育でスタート

## 6 栽培方法

施肥と薬剤防除については、もっと安心米の統一栽培暦に準じ、それ以外については、県の栽培指針に準じた管理を行いました。

### (1) 播 種

育苗箱1箱当たり150g（乾籾換算）播きとしました。

### (2) 育 苗

は種後、32℃で40時間の出芽処理を行い、ハウス内平置き方式で育苗しました。

### (3) 施 肥

施肥体系は慣行栽培に準じ、基肥+穂肥の体系としました。

基肥：有機質由来窒素100%の肥料を使用しました。

肥料分の溶出が遅いため、早めに施用しました。

ア 栽培管理

作業名	実施年月日
前作収穫終了	平成17年9月10日
耕起	10月30日
播種	平成18年3月18日
田植	4月25日
病虫害防除	4月25日
収穫	8月23日

イ 使用資材

(ア) 土づくり・施肥等

(10aあたり)

使用銘柄 (N:P:K)	実施年月日	施用量	全 N	化学N
稲ワラ	平成17年10月6日	0.5 t		
有機アグレット (6:7:3)	平成18年2月27日	60kg	3.6kg	0 kg
有機追肥530特号 (15:3:10)	7月7日	20kg	3.0kg	2.36kg
合 計			6.6kg	2.36kg

(イ) 病虫害・雑草防除等

使用農薬	対象病虫害	実施年月日
※エコホープ	もみ枯細菌病、ばか苗病等	平成18年3月5日
ウィンバリアード箱粒剤	いもち病、イネミズゾウムシ等	4月25日
アピロスター1キロ粒剤	ノビエ等の雑草	5月1日
化学合成農薬使用回数5回 (総使用回数6回)		

※印は、「化学合成農薬に含めない農薬」

(4) 薬剤防除

病虫害防除は、田植当日にいもち病および初期害虫対策として育苗箱施用薬を使用しました。

雑草防除については、田植6日後に一発処理の1キロ粒剤を施用しました。

(5) 田植

植付適期内の4月25日に行いました。

(6) 水管理

中干しや落水などの管理は、慣行栽培に準じて行いました。

(7) 収穫

帯緑色籾歩合15%の適期収穫を行いました。

## 7 今後の展望等

本年度の取り組みの結果、「ふさこがね」を「ちばエコ米」基準により栽培する場合の課題（品質、収量の確保等）については見通しがつき、初年目としてはまずまずのスタートを切ることができました。「ふさこがね」は、倒伏及びいもち病に強い品種特性を備えていることから、「コシヒカリ」に比べて「ちばエコ米」の栽培に取り組みやすい品種であり、大面積での取り組みも可能と考えられるため、生産集団や大規模農家等による産地指定制度の活用も期待されます。

一方、作った米をいかに有利販売につなげるかについても、併せて検討する必要があります。県ではホームページをはじめとした広報活動を積極的に行っているところですが、近頃では、「ちばエコ米」認証者の方から「米の流通業者から問合せがあった」、「新たな売り先が確保できた」といった声も寄せられるようになり広報の効果が徐々に現れてきました。

今後も、JAや生産者等と連携しながら、「ちばエコ米」をはじめとした山武の米の評価が高まるよう支援をつづけてまいります。